

授業科目 医学基礎

【担当教員名】		対象学年	1	対象学科	健康
遠藤 和男、盛田 路子		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
【概要・一般目標：G10】					
<p>医学基礎は疾病の原因とその成り立ち（病態発生）についての学問で、医学・医療分野の基礎的科目の1つである。管理栄養士国家試験範囲の大分類では『人体の構造と機能および疾病の成り立ち』に含まれる。種々の疾病の原因を明らかにし、その原因が生体どのように作用し生体がどのように反応し、その結果どうなるかを知ることは、疾病の診断・治療・予後の理解に役立つ。解剖生理学や生化学の知識をもとに、授業では医学の基礎的事項や用語を理解する。また、臨床医学Ⅰ、Ⅱへの導入として、臨床医学科目と関連する分野も学習する。</p>					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<p>1) 腫瘍の定義、分類、発生機序、生物学的特性を理解し、良性腫瘍と悪性腫瘍の差異、転移などの臨床的事項も学ぶ。</p> <p>2) 免疫系の全体像、主な免疫担当細胞の名前と働きを説明できる。アレルギー疾患や自己免疫疾患の例をあげ発生機序を説明できる。</p> <p>3) 感染症の成立要因と防御機構、病原微生物の種類、代表的疾患について学ぶ。</p> <p>4) 循環障害に関連した用語を理解する。とくに梗塞、血栓症、塞栓症について具体例をあげて説明できる。</p> <p>5) 内分泌系、生体の恒常性維持機構とその異常をきたす疾患について学ぶ。</p> <p>6) 創傷治癒、炎症、退行性病変（変性、萎縮、壊死）、進行性病変（再生、化生、肥大、過形成）などの病理学用語を理解する。</p> <p>7) 血液・造血・リンパ系の構造と機能を学び、その異常をきたす疾患について学ぶ。</p> <p>8) 加齢に伴う変化、個体の死について学ぶ。</p>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	医学基礎の総論的事項				講義、担当：遠藤 和男
2	腫瘍（1）腫瘍の診断：病理診断、画像診断など				講義、担当：盛田 路子
3	腫瘍（2）腫瘍の発生と進展、腫瘍の分類（例：胃癌）、加齢に伴う変化、個体の死				講義、担当：盛田 路子
4	免疫（1）免疫系の全体像				講義、レポート出題、担当：盛田 路子
5	免疫（2）免疫系の異常を示す疾患：自己免疫や免疫不全				講義、担当：盛田 路子
6	免疫（3）アレルギー疾患について 免疫系のまとめ				講義、レポート提出、担当：盛田 路子
7	感染症（1）感染防御機構と病原体				講義、担当：盛田 路子
8	感染症（2）主要な感染症（肝炎、結核、STD その他）				講義、小テスト、担当：盛田 路子
9	疾患に伴う変化：炎症と創傷治癒				講義、担当：盛田 路子
10	循環障害 充血、うっ血、血栓、塞栓、梗塞、出血、ショックなど				講義、担当：盛田 路子
11	内分泌調節系（1）恒常性維持のしくみとその破綻				講義、担当：盛田 路子
12	内分泌調節系（2）主要な内分泌疾患				講義、担当：盛田 路子
13	代謝異常 ミネラルの代謝異常、骨粗しょう症とカルシウム代謝				講義、担当：盛田 路子
14	血液・造血・リンパ系の構造と機能及び血液系疾患				講義、担当：盛田 路子
15	病理学用語のまとめ				講義、担当：盛田 路子
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療 第2版	竹中 優	医歯薬出版	2011・3,500円＋税
参考書					
その他の資料		プリント			
【評価方法】			【履修上の留意点】		
<p>1. 出席状況とレポート提出（30点）</p> <p>2. 小テストと期末試験（70点）</p>			<p>2年前期の臨床医学Ⅰ、3年前期の臨床医学Ⅱを学ぶ上での土台となる内容である。</p>		